

事例番号:300328

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 6 日

1:45 分娩開始のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 40 週 6 日

6:23 頃まで 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数基線は正常脈、基線細変動は中等度を認める

6:45- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数 50-60 拍/分台の徐脈あり

7:06 妊産婦に顔面蒼白、気分不良、意識レベルの低下あり

7:42 高度胎児徐脈のため帝王切開により児娩出

子宮破裂の所見(腹腔内の血性腹水、右子宮体下部で裂けた状態)あり

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 6 日

(2) 出生時体重:3162g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施せず

(4) Apgar スコア:生後 1 分 0 点、生後 5 分 1 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク、チューブ・バッグ)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 38 日 頭部 CT で低酸素・虚血を呈した所見

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 2 名、外科医 1 名

看護スタッフ:助産師 2 名、看護師 2 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、子宮破裂による胎児低酸素・酸血症であると考え  
る。

(2) 子宮破裂の原因は不明である。

(3) 完全子宮破裂の発症時期は、妊娠 40 週 6 日の 6 時 23 分から 6 時 45 分の間  
である可能性があると考え。

**3. 臨床経過に関する医学的評価**

**1) 妊娠経過**

妊娠中の管理は一般的である。

**2) 分娩経過**

(1) 子宮奇形のある妊産婦の分娩方法として、経膈分娩を選択したことは一般  
的である。

(2) 妊娠 40 週 6 日受診後の対応(内診、破水の有無の診断、バイタルサインの測定)お  
よび分娩経過中の管理(分娩監視装置による連続的モニタリング、血液検査、内  
診)は一般的である。

(3) 妊娠 40 週 6 日 6 時 45 分以降の胎児心拍数異常への対応(体位変換、酸素投  
与開始、医師への報告)は一般的である。

(4) 胎児徐脈の診断で緊急帝王切開を決定したことは一般的である。

(5) 帝王切開の説明と同意を口頭で行ったことは選択肢のひとつである。

(6) 帝王切開決定から 28 分後に児を娩出したことは適確である。

### 3) 新生児経過

(1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)は一般的である。

(2) 低体温療法目的で C 医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

医療スタッフ間で共有した妊産婦の情報を診療録に記録することが望まれる。

【解説】子宮奇形は、分娩時になんらかの異常(弛緩出血等)を伴う可能性をもつ形態学的異常とされている。本事案では、診療録の記録上、妊産婦が子宮奇形を有していることを分娩時に医療スタッフ間で共有していたか明らかではなく、分娩に影響する可能性のあるリスクを持つ妊産婦の情報は、スタッフ間で共有しその内容を記録することが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

(2) 緊急時でも臍帯動脈血ガス分析を実施できる体制を整備することが望まれる。

【解説】児が仮死で出生した際は新生児蘇生の対応で人員不足になることが十分考えられるので、物品の整備と緊急時でも実施できる体制を整えることが望まれる。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

子宮手術および帝王切開既往のない場合の子宮破裂は極めてまれな疾患であり、大規模な臨床的な疫学調査がほとんどないため、子宮奇形との関連、および他のリスク因子の抽出など、再発予防のための調査研究が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して  
なし。